

明智光秀の活躍は 越前から 始まった

あけち みつひで

2020年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」は、明智光秀が主人公です。光秀は越前ゆかりの戦国武将であり、その事跡を追ってみたいと思います。

光秀が織田信長の家臣であったことは知られるところですが、信長に仕えるまでの前半生については確かな記録がなく、出自も含めその様子はよくわかっていません。しかし、信長に仕える直前までは越前の朝倉氏のもとにいたと考えられています。

光秀がいつ頃から朝倉氏のもとにいたかは明らかではありませんが、永禄10（1567）年以後の室町幕府15代将軍となる足利義昭が朝倉氏



朝倉義景館跡

に援助を求めてやってくると、義昭にも仕えるようになったとされています。義昭の家臣には、後に盟友となる細川藤孝ほそかわたかがおり、光秀とはこの時に知り合い、親交を深めていきます。天正6（1578）年には、信長の命で光秀の娘である玉（ガラ

シャ）は、藤孝の長男忠興ただむきに嫁ぐこととなります。

永禄11（1568）年7月に、義昭は信長のもとへ身を寄せることとなります（光秀は同年中に合流）。義昭、藤孝、光秀の3者による協議の末、この決断をしたともいわれています。

この頃に信長が藤孝に宛てた書状に、年が書かれていない6月12日付と8月14日付のものがあります。そこには「明智に申し含めておいたから、それを義昭様に披露してほしい」と記されています。この書状の花押は永禄12（1569）年以降のものとする説もありますが、内容から永禄11年のものともいわれており、もし永禄11年だとすれば、光秀が信長の意を受けて、一乗谷にいた義昭と交渉していたことが分かる史料といえるのです。

信長のもとに行つてからも、光秀は引き続き義昭の家臣であったとされますが、信長と義昭の関係が悪化していくと、信長の家臣となります。その後は、かつて自身が過ごした越前をはじめ各地に転戦するほか、官僚的な業務など多くの任務を引き受け、多大な功績をあげていきます。その報償として近江の一部と

丹波一国を与えられ、信長政権でも有数の大名となりますが、天正10（1582）年6月2日に本能寺の変を起し、主君である信長を討つのです。

本能寺の変を起した理由は諸説あつて謎に包まれています。この信長と光秀の関係はもとを辿れば、光秀が越前にいた時から始まるのであり、それがなければ本能寺の変も起らなかったかもしれません。

ここ越前は、光秀の活躍が始まり、大きな歴史が動きはじめた場所なのです。

関連史料・ゆかりの地

御所・安養寺跡



朝倉氏の本拠地であった一乗谷朝倉氏遺跡には、足利義昭が滞在していたと考えられる「御所・安養寺跡」と呼ばれる場所があります。ここに明智光秀、細川藤孝などが集まり、信長のもとに行くという協議を行っていたのかもしれませんが。

【住所】福井市東新町
（JR福井駅より京福バス東郷線で約30分「一乗小学校」下車徒歩5分）

参考資料等

高柳光寿『明智光秀』吉川弘文館、小和田哲男『明智光秀と本能寺の変』PHP文庫
谷口研語『明智光秀・浪人出身の外様大名の実像』洋泉社

執筆・協力

福井市立郷土歴史博物館